ボランティアガイド

2024

Volunteer Guide

多様な世界に出会い、人生の可能性を広げよう！

立教大学

ボランティアってなんだろう？

ボランティア（volunteer）は、「自由意志」を意味するラテン語の「voluntas」が語源と言われています。解釈はいろいろありますが、立教大学ボランティアセンターでは、ボランティアについて次のように考えています。

バリアフリーワークショップ

ボランティア活動の本質は「人」との出会いです。
活動の場やそのプロセスでつながる人たちから
私たちは多くを学び、多くの力を得ます。

ボランティア論授業

ボランティア活動は「個」を乗り越える知恵を求め、
共に生きようとする知識を生み出します。

バリアフリーイベント

ボランティア活動の「場」には力があります。
困難から立ち上がろうとする力、生きる場を守ろうとする力、
豊かな人間性を求めて挑戦する力が生まれます。

スポーツ大会

ボランティア活動には人を「つなぐ」力があります。
一人の小さな力が動き出すとき、
そこに連なる人を動かす力を紡ぎます。

ボランティア活動がもつ４つの特性

自発性

自分の意志で動きはじめよう！

ボランティア活動は、強制されるものでも義務でもなく、自ら進んで行う活動です。自らの「やってみたい」から始まるからこそ、大きな力や自由な発想、自分の個性を発揮できます。無理して始めるのではなく、自分のタイミングで、できることから始めてみましょう。

社会性

自分の役割を探そう！

社会や組織の中では、誰にでも自分の役割があります。他者との関わりの中で自分の役割を見つけたとき、そこがあなたの「居場所」になります。焦らずゆっくり探しましょう。

無償性

大切なものとの出会い！

自分の行動に対する見返りを求めないことで、自分の想像を超えた世界や発見に出会うことがあります。社会や他者との関わりを通して金銭的な報酬よりもっと大切なものが見つかるはずです。

互恵性

「生かし、生かされる」関係へ！

はじめは、「誰かを助けたい」という気持ちでも、気が付けば、自分が教えられることの連続だった。そのような、お互いが「生かし、生かされる」関係を実感できる、それが「共に生きる」ことの原点です。

立教大学ボランティアセンター　ミッションステートメント

MISSION

立教大学はキリスト教に基づく建学の精神を具体化したものの一つとして、「共に生きる」ことを重視しています。立教大学ボランティアセンターは「共に生きる」を礎に、学生が他者との関わりや社会的な課題に取り組むことを通して、人間としての成長とよりよき社会の実現を目指す意志の育成を図ります。

立教大学ボランティアセンターはこのミッションの下、皆さんを支援します。

❶ 学生個々の支援
（相談業務、ボランティア･カフェの開催、個の支援）

一人ひとりの学生に寄り添い、ボランティア活動の理解を促進します。社会のニーズと学生のニーズをきめ細かくコーディネートし、多種多様な情報の中から適切な情報提供とアドバイスを行います。

❷ 多様なニーズに対応した体験機会の提供（1day ボランティア）

急変する社会のニーズやグローバル化する世の中の動きに素早くかつ柔軟に対応し、さまざまな体験の機会を提供します。

❸ 学生ボランティアサークルの支援
（ボランティアオリエンテーション、登録団体制度）

立教大学でボランティア活動を行う学生サークルをつなげ、それぞれの特徴・伝統を生かしながら発展していけるよう支援します。

❹ 独自のプログラムや学びの場の提供
（キャンプ･授業）

学生が現場に足を運び、自分の目で確かめ、行動・実践しながら学んでいく、主体的な学びができるボランティアセンター独自のプログラムを実施します。また授業の実施などを通じて、社会の現場を知る機会を提供します。

❺ 立教大学他部局との協働
（学内の協力連携）

学内のさまざまな学生支援部局や立教サービスラーニング（RSL）センターとの協働･連携を推進し、多角的に学生をサポートします。

❻ 地域連携

立教大学周辺の地域（池袋・新座）の課題に向き合い、共に連携します。

ボランティアを探してみよう！

皆さんの希望や興味に合わせて、多くのボランティア情報の中から自分に合ったフィールドを探してみましょう。あなたの人生に良い影響を与えてくれる大切な出会いにつながることも少なくありません。

1 何をしようかな？

大まかなイメージを描いてみよう

ボランティア活動にも様々な種類があります。あなたが興味をもつテーマ、関心のある分野は何でしょうか。まずは自分自身に問いかけてみてください。あなたに適したフィールドを見つけるはじめの一歩になります。

主なボランティアの種類

多種多様なタイプがあります

［保健・医療］

［高齢者］

［しょうがい者］

［社会教育］

［まちづくり］

［子ども］

［農山漁村または中山間地域の振興］

［環境保全］

［文化・芸術］

［観光］

［地域安全］（防災・減災）（防犯）

［情報（IT）］

［消費者保護］

［スポーツ］

［科学技術］

［災害救援・復興支援］

［人権・平和］

［国際交流・国際協力］

［男女共同参画社会］

［その他］

ボランティア活動を探すときのポイントは？

自分なりに活動イメージを 思い描いてみましょう

［　いつ？　］
春休み、夏休み、秋休み、冬休み、週末…

［　どこで？　］
大学周辺、自宅の近く、被災地、郊外、海外…

［　活動ペースは？　］
とりあえず1回、週に1回、1カ月に1~2回、行けるときに行く…

［　対象は？　］
子ども、しょうがいのある方、被災した方、教育機会の少ない方、高齢の方、外国籍の方…

［　内容は？　］
学習支援、交流支援、居場所づくり、スポーツ競技のサポート、文化交流、農業…

［　費用は？　］
交通費、参加費…

2 どうしたらいいんだろう？

ボランティアコーディネーターに相談してみよう！

池袋・新座のボランティアセンターには、専門職のボランティアコーディネーターがいます。「ボランティア活動をしてみたいけど、どんなことが自分にできるのか想像できない」「実際にどのように動けばいいのか分からない」「情報が多すぎてそれぞれの違いが分からない」など、様々な疑問や不安に寄り添いながら、みなさんが自分に合った活動先とつながることができるようにサポートします。ぜひ一度ボランティアセンターにお越しください。

コーディネーターの声

［ ボランティアセンターは、“想いをカタチに変える場所” ］

ボランティアコーディネーターは専門性を生かしながら、みなさんと一緒にその実現を目指していきます。これから何かを始めたい、こんな活動に参加してみたい、参加した活動のことで悩んでいるなど、多様な相談にお応えしますので、まずはボラセンでお話ししてみましょう。お待ちしています！

ボランティアコーディネーター **齋藤 元気**さん

3 さあ、やるぞ！

フィールドへ飛び出そう！

ボランティア活動には、プログラムへの参加やサークル加入をはじめ、多くの入口があります。豊富な情報と幅広いネットワークを生かし、ボランティアセンターでは皆さんが活動する場を数多く提供しています。

ボランティア活動の心得

一人ひとりが、立教大学の代表者としての自覚を持って！

ボランティアの活動現場には、多くの人が関わっています。活動先のスタッフもボランティアも、責任の重さは変わりません。事前の準備、活動中の心構え、常識的なマナーなど、以下の６つの心得に注意して、積極的に活動に取り組んでください。

基本中の基本！

無断欠席・遅刻をしない!!
遅刻・欠席の時は必ず活動先に連絡をしてください。 ボランティア活動には責任が伴います。

一人で悩まず、相談する！
困ったことは、 活動先やボランティアセンターに相談してください。

相手の気持ちを考えて行動する！
思い込みで行動するのではなく、 相手の気持ちを考えて行動してください。

挨拶はすべての基本！
気持ち良い挨拶を心がけ、活動中は周りの状況を見て行動してください。

個人情報の扱いに注意！
活動で知り得た個人情報は、 本人の同意なしにSNS上に投稿してはいけません。 また、 個人の連絡先（SNS等のアカウントを含む）を伝えてはいけません。

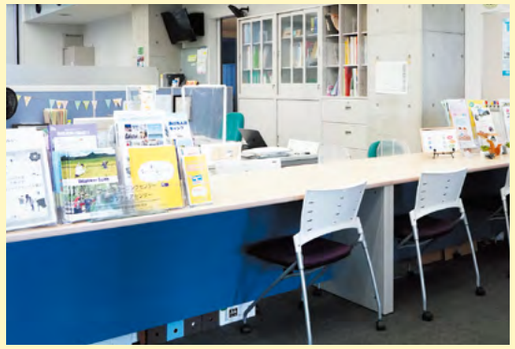
活動前にはしっかり準備をする！
事前に情報を集め、 正しく理解し準備してください。 事前説明会・研修会には必ず参加してください。

（通称：ボラセン）

ボランティアセンターってどんなところ？

立教大学ボランティアセンターでは、学生のみなさんがボランティア活動を通して学び、成長し、新たな社会を創っていくことができるようにサポートしています。みなさんの意志や想いをカタチにできるようにアドバイスをしたり、実現に向けて一緒に取り組んだり、活動の場を用意したりしていますので、ぜひご活用ください!

池袋キャンパス５号館1階



新座キャンパス７号館2階

このミッションのもと、皆さんを支援しています!

立教大学ボランティアセンター　ミッション・ステートメント

立教大学はキリスト教に基づく建学の精神を具体化したものの一つとして、「共に生きる」ことを重視しています。立教大学ボランティアセンターは「共に生きる」を礎に、学生が他者との関わりや社会的な課題に取り組むことを通して、人間としての成長とよりよき社会の実現を目指す意志の育成を図ります。

ボランティアって、「おたがいさま」なもの。

立教大学は、キリスト教信仰に基を置く教育機関です。キリスト教の正典としての聖書の中に、イエス・キリストの「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい（ヨハネ13:34）」との言葉があります。ここで、大切なことは「互いに」ということです。私が幼かった頃は、地域コミュニティが相互依存的に成り立っていました。子どもが熱を出した、親が怪我をした、誰かが亡くなった…すると地域の人たちが、「おたがいさま」そんな言葉を交わし合いながら助けてくれたモノでした。生活の直中にボランティアが息づいていたように思います。イエスが求めた「互いに」愛し合うことと「おたがいさま」という言葉の響きがどこまでも重なっていきます。愛は一人では完結しない、愛が人と人との間を行き来することがあってはじめて愛は愛になるのだと思うのです。愛とは「おたがいさま」なのです。そして、その愛（Charity）がボランティアの源泉であるのであれば、ボランティアも「おたがいさま」なものなのです。愛は、それを受け取る者を豊かにしながら、それを差し出す者をも豊かにしていきます。そんな「おたがいさま（InterDependence）」な関係の構築…それを感性においても実践においても体感できるところに、立教大学ボランティアセンターの真価はあります。

立教大学ボランティアセンター
センター長
中川 英樹さん
（立教学院副院長／大学チャプレン）

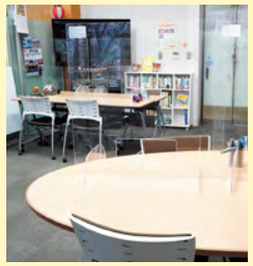
ボランティア活動をしたい・している学生のための多様なサポート

SUPPORT 1 ボランティアコーディネーターによるボランティア相談

専門職のボランティアコーディネーターが、一人ひとりの学生の想いに寄り添い、ボランティア活動の始め方から活動上の悩み・課題についての相談まで幅広くアドバイスしています。
社会ニーズの変化も捉えながら、ボランティアセンターに寄せられる多種多様なボランティア募集情報を紹介していますので、気軽にご相談ください。

SUPPORT 2 豊富なボランティア関連情報の配架

ボランティアセンター内のラックには、学内外からお寄せいただくボランティア募集情報や助成金・補助金情報、研修・イベント情報などのポスターを配架しています。自由にご覧いただき、関心のあるものがありましたらお持ち帰りください。



池袋キャンパス

新座キャンパス

SUPPORT 3 ミーティングスペースの貸し出し

池袋キャンパスではボランティアセンター内に、新座キャンパスではボランティアセンターと隣接した場所にミーティングスペースがあります。事前に予約すれば使用することができますので、ボランティア活動に取り組む学生サークルのみなさんはぜひご活用ください!

主に新入生向けに配布している冊子

SUPPORT 4 ボランティア活動に取り組む学生サークルの支援

ボランティアセンターに登録している学生サークルに対して、同じようにボランティア活動に取り組むサークル同士がつながり、互いに高め合えるように、情報共有や交流の機会を設けています。2022年度から「立教生ボランティア活動報告会」を開催し、多くの学生サークルが一年間の取り組みの成果や課題を学内外に発信してきました!
その他、ボランティアセンターの登録サークルにボランティア関連情報を共有するためのメーリングリストなども運用し、日常的に活動をサポートしています。団体立ち上げのサポートやボランティアセンターへの新規団体登録も受け付けていますので、ぜひご利用ください!

立教大学ボランティアセンターのあゆみ

ボランティアセンターは、立教大学建学の精神であるキリスト教に基づく教育を具現化するヒューマン・ムーブメントの一つとして、2003年に設立されました。
正式に「ボランティアセンター」として設立される前から「チャペルの諸活動を司るチャプレン室の活動の一環」として、その機能は存在していており、立教大学には長く実り豊かなボランティア活動の歴史と伝統があります。

設立のあゆみ

1926 立教大学におけるボランティア活動の始まりはポール・ラッシュ博士がBSA（聖徒アンデレ同胞会）という祈りと奉仕をモットーとしたグループの立ち上げに遡る

1993 チャペルの諸活動を司るチャプレン室の活動の一環としてボランティアセンターの機能を持つ組織が発足

2001 全カリ総合「ボランタリズムの可能性」開講

2003 **ボランティアセンター発足**
立教大学の押見輝男総長（当時）が「立教大学ヒューマン・ムーブメント」を唱えて、その中の一つとしてボランティアセンターが設立される

2004 八ヶ岳環境ボランティア登山（「清里環境ボランティアキャンプ」）として現在も継続）
災害ボランティア講座開始（現在に至る）

2008 ボランティアオリエンテーション開始
1989年から続く「農業体験in山形県高畠町」がボランティアセンター主催となる（現在に至る）
「バリアフリー映画上映会」開始

2011 東日本大震災復興支援本部事務局担当

2014 ボランティア功労者厚生労働大臣表彰受賞
全カリ総合「ボランティア・『耕す知』と『共生』の探求」開講

2015 一般財団法人日本財団学生ボランティアセンターとの協定書締結

2016 全学共通科目「ボランティア論」開講（現在に至る）

2022 学生コーディネーター制度開始（学生サポーターから名称変更）

2023 **ボランティアセンター設立20周年**
一貫連携教育「清里環境ボランティアキャンプ」再開
「農業体験in山形県高畠町」再開

20周年記念

立教大学ボランティアセンターは、2023年の20周年を記念し、ゲストを招いた公開イベントを開催しました。

2023年5月31日
Fukushimaは世界でどのように報道されているか
※立教大学／大学広報誌 季刊『立教』266号Nov.2023より転載

3・11後の福島県の実情について取材を続けている、本学海外招聘研究員で、オーストリアのジャーナリスト、ユーディット・ブラントナー氏を招き、シンポジウムを開催。世界では「Fukushima」や「原発事故」の問題をどのように捉えているのか。同氏が撮影した「Fukushima」の映像やウィーン在住の日本人アーティスト「Hana USUI」のコラボレーションによるアートプロジェクトなどを上映しながら、福島の現状と復興支援に対する理解を深めました。

2023年6月9日
失敗する力 ～私たちにはどのような失敗が必要なのか～

行動することをためらって動けなくなっている若い世代の背中をそっと後押しするようなシンポジウムを開催。基調講演として、本学客員教授でジャーナリストの池上彰氏が登壇。同氏のさまざまな失敗談や、失敗を成功に結び付ける心の持ち方、思考の転換などについてお話しいただきました。また、学生とボランティアコーディネーターを交えたトークセッションを通して、これからの社会での生き方やボランティア活動が持つ可能性・価値について共有する機会となりました。

2023年12月9日
ボランティアセンター設立20周年記念礼拝

ボランティアセンターの開設20周年を記念して、これまで当センターに関わってくださった方々への感謝とこれからも共に歩んでいくことを祈念し、祈りをささげる記念礼拝を開催。池袋キャンパスの立教学院諸聖徒礼拝堂に集い、ボランティアセンター長の中川チャプレンにより厳かに進められました。建学の精神を具現化したものの一つ「共に生きる」を礎にした日頃の私たちの取組みについてお話しがあり、「立教の中で最も立教らしい部署」であることを改めて実感する機会となりました。

映画「ただいま、つなかん」上映&監督講演、アフタートーク

本学出身の映画監督 風間研一氏（2001年理学部卒業）による、気仙沼でのボランティア活動を支えてきた民宿「唐桑御殿つなかん」の女将と学生との交流を描いたドキュメンタリー映画『ただいま、つなかん』上映会を開催。上映後は、監督の講演、そして本学ボランティア団体に所属していた学生や陸前高田プログラムに参加した学生とのトークセッションを実施し、参加されたみなさまと共に、ボランティアについて考えを深める時間になりました。

年間スケジュール

4月
・ボランティアオリエンテーション

6月
・学生コーディネーター募集

8月
・学生コーディネーター夏合宿
・一貫連携教育・立教学院 清里環境ボランティアキャンプ

9月
・農業体験 in 山形県高畠町

10月
・ポール・ラッシュ博士記念奨学金募集

2月
・災害救援ボランティア講座
・学生コーディネーター春合宿

3月
・立教生ボランティア活動報告会

❶ボランティアオリエンテーション ❷清里環境ボランティアキャンプ ❸農業体験in山形県高畠町

その他、随時各種イベント開催

（これまでの実施、立教チーム、共催としての参加例）

●海外ボランティア講座

●1dayボランティア
・東京都障害者スポーツ大会
・スポーツの集い
（主催：東京都、NHK厚生文化事業団、東京都障害者スポーツ協会）
・東京マラソン　・さいたまマラソン
・大江戸新座祭り　・子ども服マーケット in Sunshine City

●ボラカフェ
・海外・国内ワークキャンプって何するの？
・あの人の声をとどけたい　～戦争経験者の想いを今につなぐ立教生～
・学習支援ボランティア
・私がボランティアを始めたきっかけ

●立教RSLセンター&ボランティアセンターの協同企画
・「池袋で立教生ができる社会活動－みんなでつくる地域の居場所－」

❹スポーツの集い ❺新座大江戸祭り ❻ボランティアカフェ

立教ボラセン主催の各種講座

SESSION 1 海外ボランティア講座

池袋・新座の各キャンパスに、海外ボランティア活動を実施されている団体の方々をお招きし、長期休み中に参加できるプログラム等についてご紹介いただきました。現地の写真や映像が盛りだくさんのスライドを用いて、各団体の方々から、海外での具体的な活動やプログラムの魅力、語学力や費用のこと等についてお話を伺い、コロナ禍で長く制限されていた海外渡航が一気に身近に感じられる機会となりました。

海外ボランティア活動報告会　～立教生が参加した海外ボランティアの話を聞いてみよう～

夏休みに、海外でボランティア活動に参加した立教生による報告会を開催しました。日本ではなかなか経験できないことやガイドブックには載っていないエピソード等、学生目線で実際の活動の様子等を共有していただき、海外ボランティアを知る・参加する機会となりました。

海外ボランティアに参加して良かったとことは、お互いの国の違いをたくさん話せる機会があったことです。参加した人たちが同年代だったこともあり、様々な事柄に関する考え方をたくさんシェアし合えた時間は、本当に有意義なものでした。また、そのボランティアの期間中に限らず、終わった後でも会う約束をするような友達が海外にできたことも良かったことの一つです。
ボランティアとして参加していなければ、生涯絶対経験しないようなことや、興味を持たないようなことにたくさん触れられることが魅力だと感じました。

参加団体：特定非営利活動法人 NICE 日本国際ワークキャンプセンター
国：ドイツ　活動分野：農作業
社会学部現代文化学科2年 高原 蒼空さん

私はCFFジャパンが開催するプログラムで初海外のマレーシアに行きました。様々な事情で親と生活できない子どもたちと出会い、無条件に愛すること、自分も周りも大切にすること、そして幸せとはなにかを教えてもらいました。また、一緒に現地に行った参加者とともに子どもたちのためにワークをし、キャンプを終える頃には帰国してからも会うような友達になっていました。ボランティアは自分が他者に何かを与える側だと思っていましたが、実際には周りの人が私に日常で得られないものを沢山与えてくれました。帰国してもずっとマレーシアでの出会いが心の中心にあります。ぜひ迷っている人は一歩踏み出してみてほしいです!

参加団体：認定特定非営利活動法人 CFF ジャパン
国：マレーシア　活動分野：子ども支援
コミュニティ福祉学部福祉学科1年 五味 柚来さん

私は2週間の「ベトナム児童福祉ボランティア」に参加しました。もともと国際協力に興味があり、自分の専攻でもある教育について、途上国での実践を見てみたいという思いで参加を決めました。しかし、活動を通して貧困や教育格差の問題は決して途上国だけにある問題ではないことに改めて気付かされました。この学びから、現在は日本国内において困窮家庭の子どもたちを支援する活動を新たに始めており、ベトナムでの経験が自身の考え方や行動の変化の原点になっていると感じます。今後も視野を広く持ち、さまざまな活動に挑戦していきたいです。

参加団体：特定非営利活動法人 ICYE ジャパン
国：ベトナム　活動分野：児童福祉
文学部教育学科2年 久米 美琴さん

モンゴルのボランティアに参加して、楽しかったことも大変だったこともありましたが、日本では絶対にできないとても貴重な経験をすることができたので本当に参加して良かったと思っています。現地の人と深く関われて、かけがえのない仲間に出会えることが旅行との大きな違いでボランティアの最大の魅力だと思います。将来自分が何をしたいのかわからない人、同じことの繰り返しの毎日に刺激が欲しい人などにぜひ参加してほしいです。きっと自分の中で何かが変わるきっかけになると思います。

参加団体：特定非営利活動法人 good!
国：モンゴル　活動分野：学校・施設などの補修
法学部法学科2年 大津 澄夏さん

SESSION 2 ボランティアセンター主催の授業 ボランティア論 ～転換期を迎えた社会で求められること～

（全学共通科目 コラボレーション科目）

毎回、多様な分野で活躍する講師から、ボランティア最前線の話を聞くことができます。ステレオタイプなボランティアだけでなく、スポーツボランティア、企業のCSR活動など、ボランティア活動が多岐にわたっていることを実感し、ボランティアの「多様性」について理解します。
社会問題を自分の頭で考え、自分と社会との接点を意識する機会となり、毎年、この授業をきっかけにボランティア活動を始めて新しい世界を広げる学生もたくさんいます。

先生の声

皆さんは、「ボランティア」に興味や関心がありますか？そして、ボランティア活動とは何をどうすることなのか？と考えたことがありますか。ボランティアセンターが企画運営する全カリ科目『ボランティア論』では、毎回さまざまな現場でボランティア活動を展開しているゲスト・スピーカーから「私が実践しているボランティア活動」についてお話を伺うことができます。おそらく、「無償で人のため尽くす活動」と言った従来のボランティア観がきっと揺さぶられる学びができると思います。今は何となくでもボランティア活動が気になる学生の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

コミュニティ福祉学部教授／ボランティアセンター副センター長
結城 俊哉先生

SESSION 3 災害救援ボランティア講座

2003年のボランティアセンター設立時から、防災・減災や災害時対策の普及・啓発を行っている「災害救援ボランティア推進委員会」と共同で、災害救援ボランティアの基礎的な知識とスキルを習得できる「災害救援ボランティア講座」を開催しています！
災害ボランティアについてだけでなく、日常の場面で想定される応急手当なども学ぶことができ、修了者には、災害救援ボランティア推進委員会より「セーフティリーダー認定証」が、東京消防庁より「上級救命技能認定証」がそれぞれ授与されます。多くの立教生・教職員が講座を修了し、各地で活躍しています。
本学に限らず様々な場所で開催されている講座ですが、立教大学で開催する際には、本学学生・教職員に対して先着20名までは大学から受講料を補助していますので、“無料”で受講することができます。
人気の講座なので、お申し込みはお早めに！

● 主な内容

応急手当活動（上級救命技能講習）、災害救援ボランティアの基本、出火防止と初期消火、災害ボランティア活動ケースワーク、災害と防災対策の基本、災害模擬体験と実技（地震・消火・煙等体験）、大学・学生・地域による復興支援と防災活動、災害ボランティア活動の安全衛生と図上演習等
その他にもボランティアセンターでは、様々な講座の開催、一部検定の受講料補助をしていますので、関心のある方はボランティアセンターでご相談ください！

立教ボラセン独自のプログラム Part 1

有機農業の里として有名な上和田有機米生産組合との交流を図りながら、農・食・環境を考える農業体験 in 山形県高畠町など、学生ボランティア活動の可能性を広げる、新たなフィールドの開拓・実践にも取り組んでいます。

PROGRAM 1 農業体験 in 山形県高畠町

多量の農薬散布で農作物を作ることが常識だった40年近く前、いち早くその害に気付き、有機栽培農法で稲作を始めたのが上和田有機米生産組合です。立教大学とは本プログラムで約30年にわたるお付き合いになります。多くの学生を育ててくれた高畠の人々を通して、「土にふれ、食を見直し、共に生きる」ということにまで思いを馳せる5日間です。日常を離れ、高畠の豊かな自然や人としての本質的な生き方を実践している人たちとの出会いは、自身や既存の価値観を見つめ直し、今後の生き方を考えるきっかけとなるでしょう。

稲の間に生えている稗抜き作業中

特色ある立教の各種キャンプ

学習においては、座学によって理論や知識を習得する「キャンパス・エデュケーション」と実際の現場から学ぶ「フィールド・エデュケーション」、双方の連動が重要です。正課外教育プログラムの中核をなしてきた各種のキャンプやフィールドワークでは、学生が現場へ出向き、他者との関係性を通じてアイデンティティや自立を獲得し、「共生」や「協働」といった考え方や態度を身に付けるようなプログラムを用意しています。フィールドワーク農業体験や奥中山ワークキャンプ、林業体験など、立教ならではのプログラムを通じ、あなた自身のキャリア形成につなげていきましょう。

PROGRAM 2 一貫連携教育 清里環境ボランティアキャンプ

緑豊かな八ヶ岳山麓の清里高原を拠点に、立教学院各校の小・中・高校生、大学生たちが共に取り組む自然保護活動です。一貫連携教育の中で各学校の構成員が集まる唯一のプログラムとして2004年から歴史を刻んでいます。大学生には、単に参加するだけでなく、自然環境保護の専門家（レンジャー）と共にプログラムを創り、実施する楽しみもあります。年代の異なる仲間とも協働していく楽しみ、自然の偉大さにふれながら自分もその自然を保護するという使命感などがあなたの活動を支えます。「他者」と関わることで、「自分」とも向き合える貴重な機会です。

清里の森の中で自然歩道の修復中

参加者の声

色鮮やかな夏休み

農業体験in山形県高畠町参加

農業体験への参加を決めた動機としては、「学科外の人と関わりをもってみたかったこと」、そして「食への関心」の大きく2点がありました。 実際にこの２点を自分のテーマとして、 農業体験に参加したのですが、 結果的に想像以上の人間関係の構築、 そして食の体験ができました。

宿泊を含む体験なので、 四六時中同じメンバーで数日を過ごします。 様々な話をする中で、学年を問わないフラットな関係を構築できましたし、 同行する職員の方々と会話する時間も多くありました。 そして、 農業体験後も長く付き合い続けたいと思う関係の友人がたくさんできました。 食に関しても、 初めて見る形のナスの漬物、 さらにはホップ（ビールの原料）まで食べることができ、 非常に新鮮で、 満足な経験ができました。

自分の意欲次第で様々なことを吸収できる活動です。 ぜひ、 自分なりのテーマを定めて参加してみてください。

理学部 物理学科２年
奥平 宇星さん

参加者の声

他者にも自分にも真摯に向き合う大切さ

清里環境ボランティアキャンプ参加

清里キャンプは、 レンジャーの方々の自然への熱い思い、 小学生の真っすぐさ、 中高生の頼もしさ、 先生方・スタッフの方々の暖かさを肌で感じる三日間でした。 参加のきっかけは、 日常生活では関わる機会が少ない小・中・高校生や、 チャプレン、 学校の先生方、 スタッフの方々と三日間を共に過ごすことに惹かれたためです。 事前研修では、 どのように 「小学生」と接したらいいのか、 生活面や活動面、 レクリエーションの検討の際に考えていましたが、 実際に３日間を共に過ごし、「一人の人間」として接することの重要性に気付かされました。 参加した人々は皆、 小学生も大学生も関係なく、 一生懸命に自然保護活動に取り組んでおり、 ひとりひとりの努力に向き合うためには、 自分も全力を尽くし、 真摯に向き合うことが大切であると実感しました。 立教と深い関わりのある清里の地で、 自然を感じながら、 新たな挑戦をしたい、 人々と真摯に向き合ってみたいと思う方はぜひ!

異文化コミュニケーション学部
異文化コミュニケーション学科４年
高木 優衣さん

立教ボラセン独自のプログラム Part 2

PROGRAM 3 ボランティア初心者大歓迎！ 立教チームで参加する「1dayボランティア」

1dayボランティアは、「ボランティアに関心はあるけど、一人で始めるのは不安」「継続できるか心配なので、まずはお試し体験がしたい」という学生に対して、1日から参加できるボランティア活動の機会を提供するプログラムです。 活動には、ボランティアコーディネーター（職員）も同行しますので、活動中に生じた問題や不安についてもその場でサポートいたします。 また、活動ごとに参加者を募集し、毎回新たにチームをつくるため、学年関係なく、どのタイミングからでも参加することができます。2023年度も、多くのボランティア初心者が「はじめの一歩」を踏み出し、ボランティア活動デビューを果たしました。

「ハガー」として活動した学生の様子

［ 東京都障害者スポーツ大会（陸上競技） ］

「東京都障害者スポーツ大会」は、全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねている都内最大規模の障害者スポーツ大会です。今年度立教チームは、「水泳競技（知的・身体）」「陸上競技（知的、身体・精神）」「スポーツの集い」の活動にボランティアとして参加し、大会運営をサポートしました。

水泳競技：5/20（土）

東京アクアティクスセンターで開催された「水泳競技（知的・身体）」では、主に「招集・誘導」「荷物運搬」「計時員」の役割を担当しました。国際大会も開催される本格的な水泳会場で行われた本大会では、競技運営に重要な役割を担うことができ、貴重な経験となりました。

ボラセン公式noteはこちら

陸上競技：5/27（土）、28（日）、6/3（土）

駒沢オリンピック公園総合運動公園 陸上競技場及び補助競技場で開催された「陸上競技（知的）（身体・精神）」では、主に、「開会式の旗手」「ハガー」「表彰」「選手の招集・誘導」などの役割を担当しました。

ボラセン公式noteはこちら

参加者の声

私は、招集を受けた選手をそれぞれの待機場所まで誘導する、という役割で、初めは「こんな感じでいいのかな」と不安がありました。しかし一緒に活動するボランティアやスタッフの方の姿を見ながら、ハキハキと声を出したり、身振りを大きく使って誘導する場所を明確に示したりと、自信をもてるようになっていきました。また、誘導した際、選手に「ありがとうございます」という言葉をかけてもらい、嬉しい気持ちと、さらに選手たちが活躍できる環境を支えたいという気持ちになりました。しょうがいのある方々がスポーツを楽しみ、活躍する姿を見て、ほんの一歩当事者の方々の理解に繋がったと思います。（文学部 史学科 3年）

初めてボランティアに参加して新たな視点で水泳大会を見ることができた。大会後にメダルを取って喜ぶ選手を見て、自分が関わったと思うと嬉しくなった。（社会学部 社会学科 1年）

学生だけでなく、企業の方など様々な方がボランティアとして大会運営に携わっていた。学生という立場ではなく大会運営に携わる競技補助員の一員として動き、互いにサポートし合うことでスムーズに運営することができているのだと感じた。（現代心理学部 心理学科 2年）

今回の活動を通して、運動をしたいと思った人が誰でも取り組めるシステムがあることに気づきました。例えば、視覚障がいがある方には背中を叩く棒があること、一緒に入水すること、入水した状態から泳ぎ始めることなどです。いままでの生活の中で障がいのある方と関わることが少なく、授業内でしか触れてこなかったからこそ、今回のような障がいのある方が主役の大会は、驚きと発見の連続でした。（コミュニティ福祉学部 福祉学科 1年）

PROGRAM 4 大江戸新座祭り

7月16日（日）に、ふるさと新座館（新座市 野火止）などで開催された『第8回 大江戸新座祭り』において、立教チームの学生ボランティアが24名参加し、その運営をサポートしました。
当日は猛暑日にも関わらず、会場内の各所（ステージ、屋台村など）が多くの市民で大賑わい。夕方から開催された阿波踊りでは、「連」と呼ばれるグループが、交通規制が行われた公道を踊り歩き、沿道に集まった大勢の市民から拍手や声援が送られました。
立教生はボランティアとして、「射的の屋台」や「子どものための抽選会」「本部」の運営、「会場アナウンス」「阿波踊りの進行サポート」などを担当。地域の方々と協働しながら、一年に一度のお祭りを盛り上げました。

ボラセン公式noteはこちら

参加者の声

射的の会場では、景品の並べ直しやコルク集めを子どもたちが積極的に手伝っていました。地元の子どもたちが積極的にお祭りに参加している様子を見て、私も自分の地元のイベントに積極的に参加して地元に貢献したいと感じました。また、他大学の方と同じ場所を担当し、同じ部屋で休憩したことで、様々な話をすることができました。（現代心理学部 心理学科 1年）

最初は、自分がどのように動けばいいのか不安も多く、探りながら動いていました。しかし、祭りに来た人たちの笑顔を見て、もっと自分にできることがないか考えながら主体的に動けるようになりました。抽選と射的では、子どもたちと接する機会が多かったので、目線を合わせて話したり、どのおもちゃがいいのか一緒に探してみたり、相手の立場に立って考えて行動できたと思います。（観光学部 観光学科 3年）

今回が自分にとって初めてのボランティア活動だったのですが、大変だったぶんとてもやりがいがありました。阿波踊りの出演者の方や、見に来ている地域の方が楽しむ姿を見られたり、感謝してもらえるのがうれしかったです。また普段関わることない上級生や、他大学の学生の方々と活動することで刺激をもらえて貴重な経験になりました。（コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科 1年）

学生の立場から、学生と地域をつなぐ

学生コーディネーターの活動 Part 1

［ 学生コーディネーターって何？ ］

学生の立場からボランティアコーディネーションを実践するプロジェクトです。 ボランティア活動の魅力を伝えたり、 ボランティア活動に参加するためのきっかけをつくったりするなど、 ボラセンのスタッフとともに、 ボランティア活動の機運を高める活動に取り組みます。
現在は、 2022年度に任命された第一期、 2023年度に任命された第二期の学生コーディネーターが活動しています。 今年度の活動は、 活動の指針となるMISSIONを整理するところから始まり、 それを踏まえて様々な取り組みを創出しました!

学生コーディネーターMISSION2023

私たち学生コーディネーターは、 自分たちが感じるボラセンの課題を共有したうえで、 活動の方向性を明確にするために『学生コーディネーターMISSION2023』 をまとめました。

❶ ボランティアの魅力の再発見・発信

「ボランティア」という言葉の硬さ･分かりにくさ･特別感などが学生の中にあり、活動に参加するうえでのハードルが高くなっているため、一部の価値観に偏ることがないように、学生コーディネーター自身が「ボランティア」に対する考えを深めたり、その魅力を再発見したりしながら、それらを多くの学生に伝えていく。

❷ ボランティアセンターの活動の見える化

現状としてボランティアセンターの中身（取り組みや人、情報など）が見えにくい状況にあり、学生がアクセスしにくいということが大きな課題となっているため、ボランティアセンターの活動やそこに関わる人などを広く知ってもらうことで、安心してボランティアセンターに来室できるようにしていく。

❸ 人と人とをつなげるきっかけをつくる

ボランティア活動への一歩を踏み出しやすいような環境づくりに取り組むことで、学生が学内外に限らずコミュニティを広げ、多様な人とつながっていけるようなきっかけをつくっていく。

COORDINATION 1 学生コーディネーター研修合宿＆任命式

活動の詳細は、
ボラセン公式noteで記事を公開中!
https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n50e5baa0a9da

今年度新たに加わった第二期学生コーディネーターが合流し、今後の活動に向けた研修合宿を実施しました。この合宿では、「ボランティアセンターのミッションや取り組みについての理解を深めること」「ボランティア活動やボランティアコーディネーションについての基本的な考え方を理解したうえで、学生コーディネーターとして取り組みたいこと･取り組むべきことを具体的にイメージし、メンバー内で共有すること」「チームとしての連帯感を高めること」を目的としており、ロールプレイやフィールドワークを交えながら学びを深めていきました。最終日には、立教学院聖パウロ礼拝堂（チャペル）にて、任命式を実施。ボランティアセンター長の中川英樹チャプレンから、メンバー一人ひとりに任命証が手渡されました。

2022年度 学生コーディネーター

［ ボランティアコーディネーションを学んで ］

この合宿で印象的だったのは、ボラセンが「学生がもつ可能性を引き出し、様々な想いをカタチにする場所」であることを教えていただいたことです。自分も学生コーディネーターとして少しでもそのお手伝いができるようになりたいと思いました。
一方で、ボランティア相談対応を体験するロールプレイでは、その難しさも感じました。「相談者の想いを引き出すこと」「参加の意欲を高めること」をゴールとして取り組みましたが、実際は意欲を高めることに苦戦しました。
また、フィールドワークでは、実際にボランティアの受け入れをされている方のお話を伺い、現場の実情について知ることができました。ボランティア活動を紹介する上で、実際の場を訪問することが大切であることに気づけた時間でした

経済学部
経済学科３年
北村 香乃さん

2022年度 学生コーディネーター／ボラカフェの企画者

［ ボランティアの発見／再発見の場に ］

今回のボラカフェを通してボランティアの魅力を再発見することができました。
このボラカフェのきっかけは、 ゲストスピーカーの小林さんがボランティアセンターに相談者として訪れた際に私が立ち会ったことでした。 今回のボラカフェのテーマは 「戦争体験の伝承」 でしたが、 歴史上の事実として 「戦争」 のことは知っていても、 改めてそれについて考える機会はなかなかないと思います。 ボラカフェを開催するきっかけは偶然の出会いでしたが、 ボラカフェという場につなげることができたことで、 ゆったりと話すことができるという特色を生かすことができました。
普段私たちが気づいていないようなボランティアの魅力を、 人と人が繋がることで発見することができると感じました。 今後もボラカフェのようなボランティアの魅力を発見／再発見できるような機会をつくっていきたいと思います。

現代心理学部
心理学科２年
松戸 徳寿さん

COORDINATION 2 ボラカフェの企画・実施

活動の詳細は、
ボラセン公式noteで記事を公開中!
https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n73e673dac8e8

「ボラカフェ」 は、 カフェのようなゆったりとした雰囲気の中で、 様々なボランティア活動に関する話が聞けるイベントです。 実際にボランティア活動に参加した方との交流を通して、「ボランティア活動を身近に感じてもらいたい!」「ボランティア参加へのハードルを下げたい!」 そんな思いから開催しています。
7月６日（木）には、 ボラカフェ 「あの人の声をとどけたい～戦争経験者の想いを今につなぐ立教生～」 を新座キャンパスのボランティアセンターで開催しました。
”戦争体験の伝承”をテーマに開催したこのボラカフェでは、 高校２年生の時に学生団体 「peace & voice」 を設立し、 現在も戦争経験者やその記憶を語り継ぐ活動を行っている小林友香さん（コミュニティ福祉学部 福祉学科１年）をゲストにお招きし、 小林さんが戦争経験者の方からお聞きし、 記録しているお話や、 これまでどのような思いで伝承活動に取り組んできたのかなどを伺いました。

学生の立場から、学生と地域をつなぐ

学生コーディネーターの活動 Part 2

COORDINATION 3 「東京都内ボランティアセンター学生スタッフ交流会」への参加

8月31日（木）に開催された「第1回 東京都内大学ボランティアセンター学生スタッフ交流会（主催:成蹊大学ボランティア支援センター学生スタッフSeivior）」に学生コーディネーターが参加。ボラセン見学や課題解決に向けたグループワークを通して、今後の活動のヒントを得ました。

活動の詳細は、
ボラセン公式noteで
記事を公開中!
https://note.com/rikkyo_volunteer/n/nf46058ac082a

COORDINATION 4 学生コーディネーター オリジナルキャラクターが誕生！

他大学の学生スタッフとの交流から得たアイデアをもとに、イラストを描くことが得意な学生コーディネーターが、オリジナルキャラクターを制作しました。

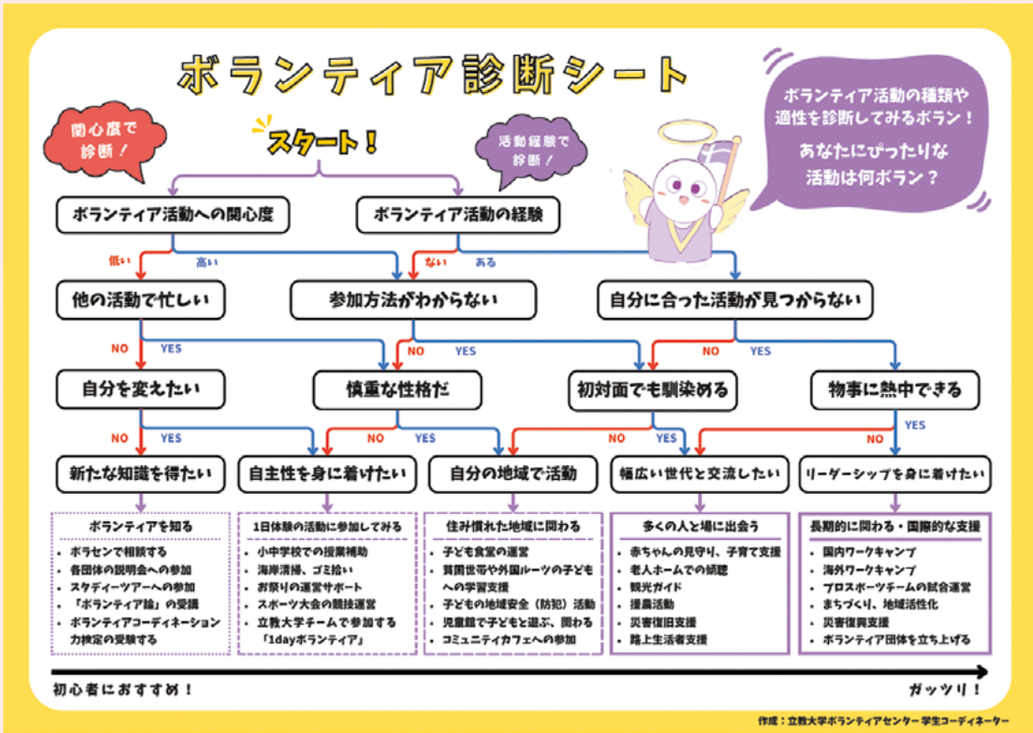
2023年度 学生コーディネーター

他大学の学生との交流がモチベーションに

ボランティアセンターや学生コーディネーターの取り組みがより多くの学生に伝わるようにと考え、オリジナルキャラクターを制作しました。文章でアピールすることに限界を感じていたのですが、イラストを入れることで飽きずに情報を受け取ってもらえるようになるのではないかなと考えています。個人的にはかなり可愛く仕上がったと感じています。
このアイデアは成蹊大学での交流会で思いついたものです。他大学の学生と交流できたことが、このアイデアを具現化するモチベーションにもなりました。
ボランティア診断シートに掲載しています。もし興味がありましたら、手に取ってご覧ください。

法学部
国際ビジネス法学科1年
山崎 藍さん

COORDINATION 5 「ボランティア診断シート」の作成



「ボランティア活動をしてみたい!」そう思っても、 情報が多すぎて自分が求めている情報に行き着くのが難しい現状があります。 実際に、 活動参加への意欲はあっても活動先をうまく見つけられていない学生も多いです。 そこで、 関心と経験のそれぞれから自分に合ったボランティア活動を探すことができるフローチャートを作成しました。「ボランティア診断シート」としてまとめ、 ボランティアセンターで配布していますので、 ぜひご活用ください!

2023年度 学生コーディネーター

自分がやってみたいと思えるものや信頼できるものを探すために

ボランティア診断シートは、夏の合宿で得たアイデアをもとに実現した企画です。今はインターネットでボランティア活動の情報を探そうと思っても、大量の情報が溢れていると思います。そのような状況の中、ボランティア未経験者が、自分がやってみたいと思えるものや信頼できるものを探すのは難しいのではないかと考えました。それが診断シートを作成しようと思った経緯です。
診断シートの作成にあたり、たくさんの人たちに協力していただきました。学生コーディネーターのキャラクターも載せることができましたし、ボランティアセンター全体で作り上げたものだと思います。少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。

法学部 法学科1年
池田 明悦さん

多様な手段を選択することによってバリアの解消を目指す

バリアフリープロジェクト

［ バリアフリープロジェクトとは？ ］

バリアフリーに関するイベントとして、2009年から、毎年「バリアフリー映画上映会」を開催してきましたが、多様な手段によるバリアの解消を目指す取り組み「バリアフリープロジェクト」として、2022年度に新たなスタートを切りました。withコロナの時代に、2023年度も公募で集まった学生メンバーが、社会の中で人々を分断する「バリア」とは何かを考え、自由な発想と行動力を活かして、その解消を目指しました。今後も立教大学における新たな「バリアフリー」の取り組みのカタチを探っていきます。

2023年度の開催例　・6月 プロジェクトメンバー募集　・8月 キックオフミーティング　・2月 振り返りミーティング
活動期間：2023年8月～各プロジェクトの終了まで ※2023年度中

キックオフミーティングでは、 2022年度のプロジェクト参加学生から、 当時直面した課題や活動を進める上でのアドバイス、 コミュニケーションの大切さなど貴重な経験をお話しいただきました。 また、 ボランティアセンターの副センター長の結城先生より、 ご専門のノーマライゼーションについてお話を伺い、 バリアに関する考え方について理解を深めました。 学部学年を越えて集まったメンバー全員が、 学生主体でプロジェクトを進めていくイメージを膨らませたところで、「社会にはどんなバリアがあるのか」を考えました。 それぞれが日常生活で感じる“バリア”について、 多くの考えや価値観を共有し、 キャンパスごとのチームに分かれてプロジェクトを進めました。

各チームの取り組み

①解消しようとしたバリア　②上記バリアに対する取り組み

TEAM 1 池袋チーム

経済学部
経済政策学科２年
石井 もえさん

社会学部
現代文化学科３年
国沢 夏実さん

経済学部
経済学科２年
土屋 華里さん

社会学部
現代文化学科４年
眞野 理子さん

社会学部
現代文化学科１年
和田 優来さん

①忙しさに追われることにより感じられるバリア

12月・1月 池袋キャンパスでイベント開催
**「ストレスリセット!
～ちょっと ひと息つこう～」**

ボラセン公式
noteはこちら

②今回のプロジェクトでは、 8月からチームメンバーがこれまでに感じたバリアを共有し、 まず初めにスチューデントアパシーと呼ばれる学生特有の障害に着目しました。 学生でありながら本業であるはずの学業への意欲のなさ、 無気力な状態を表すこの言葉に、 聞き覚えがなかったこと、 最近の研究がなく、 調べることで新たな視点になるという点からこのバリアに着目しました。
次に、 文献調査や教授にインタビューを行い、 さらに理解を深めました。 その結果、「今の学生は一生懸命何かをやることで充実感を求めており、 だらだらする時間を知らない人が増えている」ことがわかりました。 そこで私たちは忙しさに追われている学生に対してリラックスする時間の大切さやストレスへの向き合い方について知ってほしいと考え、 ストレッチイベントを行うことにしました。
イベント当日はボラセンのスタッフに協力を得て和やかな雰囲気でストレッチに取り組み、 心身を休めリフレッシュする時間の大切さやストレスとの向き合い方を伝えることができました。 また、 参加者の方々の感想を聞くことで私たちの活動に対する理解を深めることもできました。

学生の声

今回のプロジェクトを通じ、 どのようなバリアであっても、 自発的に調べて得られる情報だけでなく、 様々な視点から目を向けることで現状を正しく理解する必要性を感じました。 そのため、 取り扱ったバリアは限定されていたものの、 たくさんの課題に気づくことができました。
またイベントは、 参加しやすい昼休みに開催したこともあり、 当日は時間が限られていて参加者と十分にコミュニケーションを図ることが出来なかったという反省点は残りましたが、 そのことで改めて対象者へのアプローチ方法やリラックスの雰囲気づくりにおける人との会話での交流など、 今後へ生かせる知見も得ることができました。
参加者の方からは好意的なご感想を頂き、 イベントの主旨である「自分と向き合う時間を作りながら自分なりのストレスとの向き合い方を探っていく」という時間を共有でき、 達成感を感じました。
最後に今回のプロジェクトをきっかけとし、 同じ問題意識を持つ仲間と、 普段自分の胸の内で考えるだけでアプローチできない課題を共有することができました。 今後も学生同士がバリア社会のためにできることを考える機会があると望ましいのではないかと考えました。

TEAM 2 新座チーム

コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科１年
渡邊 香穂さん

コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科１年
谷口 鞠衣さん

①他者との違いに対する恐れや、一つの価値観に囚われる息苦しさ

12月～計5回 新座キャンパスでイベント開催
「ゆるもやおしゃべり!」

- 第一回：12/6（水）
  テーマ：意識高い系
- 第二回：12/13（水）
  テーマ：おじさん構文
- 第三回：12/14（木）
  テーマ：お母さんヒス構文
- 第四回：12/20（水）
  テーマ：コミュ障
- 第五回：12/21（木）
  テーマ：どこから大人？

ボラセン公式
noteはこちら

②身近な人間関係や社会の小さな変化に「もやもや」したことがあっても、「伝えた相手にどう思われるのだろう」と不安になったり、 うまく「もやもや」を言語化できず誰にも伝えられなかったりして、 自分の気持ちに蓋をしてしまうこともあるだろうと思います。 今回は、 その「もやもや」が生まれる原因として、 社会や個々人がそれぞれの違いを受け止められない雰囲気になっていること、 それによって他者との違いをポジティブに捉えられないことが、 人と人を分断する「バリア」になっているのではないかと考えました。 そこで企画したのが、 互いの“違い”を受け止め合うような対話の場「ゆるもやおしゃべり!」です。
この対話の場では、「ゆるい雰囲気」で語り合うことを大切にし、「学術的すぎず、 私的すぎない、 第三の対話の場」にすることを心がけて運営しました。 ボランティアセンター内で定期開催（約1カ月／計5回）したのですが、 毎回のテーマに社会の諸問題や言説、 ミームにまつわる「もやもやワード」を設定したことで、 参加者の様々な思いや価値観に触れることができました。 対話の場の運営にあたっては、 話題がネガティブな方向に進んだり、 誰かを責めたりすることがないように、 対話のゴールとして“もやもや”をポジティブ化することに取り組みました。 実際に参加者全員がそのゴールを意識することで、 ホスト/ゲストの関係に関係なく、 共に創り上げていくような場になったように思います。 対話の場をポジティブな空間にすることで、 社会全体にもポジティブな雰囲気が広がっていけばいいなと思います。

学生の声

自分たちで全てを決めていく必要があるため、 何度も行き詰まりましたが、 常に「自分たちにとってワクワクする内容」を追求し、 自分事として楽しく真剣にテーマを深掘ることができました。 MTGを通して、 仲間の率直な意見に触れ、 自分とは異なる視点をもてたことも面白かったです。
「ゆるもやおしゃべり!」でも、 同じような雰囲気をつくろうとしましたが、 実際に運営を経験したことでその難しさや場づくりの技術の必要性にも気付きました。 何度も悩んだ運営方法については、 もっと工夫できるように学んでいきたいです。 自分の中にある偏見・バリアに気付き、 時にはそれが解消された実感もありました。 さらに、 私たちの企画に誰かが参加してくれたり、 その内容を社会に発信したりすることで、 少しずつかもしれないけれど「自分たちの取り組みでバリアに対する意識を変えていけるのだな」ということも実感できました。

地域・社会で活躍する立教生ボランティア

ボランティアセンターが主催している活動以外にも、学生サークルや地域団体など、様々な団体がボランティア活動を企画・運営しています。
活動分野や活動場所、活動に参加したきっかけなども多様です。
ここでは、学外に飛び出してボランティア活動をしている学生を紹介します！

CASE 1 世界的な問題を考えるきっかけに

NPO法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）→ネパールワークキャンプ

私は、ネパールの小・中学校の子どもとの交流や学校の運営の手伝いをする2週間のワークキャンプに参加しました。プログラムの主催は現地のNGOですが、「NICE」という日本のNGOを通じて申込みをしました。この活動に参加したのは、アジア圏で私が経験したことのない種類のボランティア活動に参加したかったためです。
現地では、ホストファミリーと同じ食事をとったり、子どもたちに町の祭りを案内してもらったり、子どもの誕生日を祝ったりと、現地の方々の生活に近い体験ができました。一方で、滞在中には、道端にある大量のゴミや都市での深刻な大気汚染を目にすることもありました。
私が参加したような短いプログラムであっても、地元の人々の助けになれたり、子どもたちが外国人と交流する機会を与えられたりすると思います。また、困りごとや問題がある地域を訪れることができれば、世界的な問題について考えるきっかけになると思っています。

観光学部
交流文化学科４年
福田 千珠さん

CASE 2 学生の私たちだからできること

活動先：立教大学BBS会

立教大学BBS会は、昨年度新しく立ち上げ、ボランティアセンターに登録したサークルです。BBS(Big Brothers and Sisters)は、非行などの様々な問題を抱える少年少女にとっての身近なお兄さん・お姉さんのような立場で一緒に学び、遊び、楽しむ法務省管轄の青年ボランティア団体です。
昨年度は、埼玉県内の他地区BBS会と合同で川越矯正展に参加したり、料理イベント(餃子、うどん打ち、バレンタイン)を開催したりしました。立教大学の学生のみならず、他大学の学生、社会人、子どもたちと一緒に時に楽しく、時に真剣に更生保護について考えています。「学生だからできること」をみんなで模索しながら活動しています！

コミュニティ福祉学部
福祉学科２年
中村 理加さん

CASE 3 外国ルーツの子どもたちに居場所を

活動先：認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 無料学習支援会 x「WAKUWAKU×ルーツ」
（外国ルーツの子どもたちへの包括支援）

私は学部1年生の時から、豊島区池袋地域にある無料学習支援会にボランティアとして通い始め、コロナ時期の2020年5月にボランティアの先輩と一緒に「WAKUWAKU×ルーツ」（外国ルーツの子どものオンライン居場所事業）を立ち上げました。元々ボランティアを始めたきっかけは、学部1年次春学期の「多文化共生概論」の授業で、日本社会で暮らす外国ルーツの子どもたちの現状や課題を知った後、「在日外国人として自分も何か手伝いたい」という思いでした。そこで、地域のNPOで無料学習支援会のボランティア活動を進めるなか、外国にルーツを持つ子どもたちが直面する社会的障壁の複雑さや「居場所づくり」の必要性を痛感しました。当時、解決が難しい問題や課題に対してオンライン居場所の新規事業を作り上げ、コロナ明けの現在でも対面とオンラインを併用して多様な活動を取り組んでいます。活動を通じて、外国ルーツの子どもが抱えている学校生活や進路の悩みを解決しつつ、日本社会で暮らし続ける上で自分の文化的背景、ルーツをより肯定的に捉えていくという目的も果たしています。今後も、外国ルーツの子どもに心を込めて、継続的なサポートしていきたいと思います。

異文化コミュニケーション研究科
異文化コミュニケーション専攻1年
劉 依荻さん

CASE 4 学生目線で地域の魅力を発信

活動先：立教大学地域活性化団体Ｒ×Ｌ

私は「立教大学活性化団体Ｒ×Ｌ」という学生団体に所属し、現在は主に長崎県対馬市と埼玉県の長瀞町にて地方創生の活動を行っています。地方創生のゼミがきっかけで生まれた当団体ですが、現在はゼミの枠を越え、地方創生や観光に興味のある学生が集まり学生団体として活動中です。最近の活動では、ラフティング＆リバークリーン体験の開催や学生目線で長瀞町の魅力を発信するため、長瀞町の観光マップを作成しています。マップ作成は現地取材や長瀞町役場の方々との会議を重ね、まちの魅力的な部分やもっと沢山の人に訪れてほしい場所などを選び、沢山の方の協力の下行っています！ マップ完成後は秩父鉄道の駅や立教大学構内、長瀞町役場になどに設置して頂ける予定なのでぜひご覧ください！ 団体成立からまだ間もないため先例などがなく活動する上で大変なことも多いですが、逆に何でも挑戦できる環境でもあるので、これから先も様々なイベントや活動を計画し地域活性化に貢献していきたいです！

法学部
法学科３年
松本 葉名さん

ポール・ラッシュ博士記念奨学金

[ポール・ラッシュ博士記念奨学金とは？]

ポール・ラッシュ博士記念奨学金は、キリスト教の精神にもとづいて、地域、教会、病院などへの奉仕活動を生涯にわたって実践された、元本学名誉教授ポール・ラッシュ博士を記念して設けられました。この奨学金は、キープ協会在米後援会（キープ協会は、地域活動、キリスト教学生活動などの拠点として同博士が設立された機関です）、およびその他の有志によって寄贈された基金とその収益金をもとに支給されています。
ポール・ラッシュ博士の精神や生涯にわたる諸活動を記念し、本学学生に奉仕の精神に基づく諸活動（おもにボランティア活動）を奨励し、援助することを目的としています。
奨学金額は、年額合計70万円以内（給与奨学金）です。詳しい手続は、募集要項を参照してください。

ポール・ラッシュ博士記念奨学金に関する詳細な情報は、
ボランティアセンターのwebサイトに掲載しています。

[主な掲載内容]　直近の募集要項・願書
ポール・ラッシュ博士について
歴代採用計画・受給者について　など

https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/activities/report/SitePages/paul_rusch.aspx

[お問い合わせ先]
立教大学ボランティアセンター
池袋キャンパス：5号館1階　Tel. 03-3985-4651
新座キャンパス：7号館2階　Tel. 048-471-6682
Mail. volunteer@rikkyo.ac.jp

よくある質問

QUESTION 1　これからボランティア活動をしようと思っているという学生も応募できますか?

はい。これから活動される予定の方も対象となります。

QUESTION 2　ボランティア活動の頻度、継続性はどの程度求められますか?　また、どのような内容が、対象と見なされますか?

頻度、継続性については特に定めていません。ボランティア活動は強制されたルールに従って行うものではなく、自発的に自分の意志で行う無償（交通費などの実費支給は除く）での活動で、内容は互恵性、社会性のある活動になります。
企業の営利目的としたものは対象外となり、本奨学金は学生個人（学生団体）が中心となって行う活動を対象としています。

QUESTION 3　日本学生支援機構の奨学金との併給は可能でしょうか?

経済支援を目的としているJASSOの奨学金とは使途目的が異なりますので、併給は可能です。

QUESTION 4　活動計画書はどのようにまとめたらよいでしょうか?

書式は自由です。日程・動機・費用など含め2,000字以上で計画書を作成してください。過去の活動報告書はボランティアセンターで閲覧できますので、ぜひ参考にしてみてください。作成の際には、第三者にとって読みやすい構成としてください。大学教育開発支援センター作成のMaster of Writingを参考にしていただくと良いと思います。

QUESTION 5　推薦書は、どのような方にお願いしたらよいでしょうか?

ゼミの担当教授、アカデミックアドバイザー、学科の教授（学科長、学部長）などにお願いするとよいと思います。活動を知らない先生でも、自ら説明することで推薦状を書いていただくことが可能です。既に活動中の方は学外の方でも良いので、関係する組織の担当者でも大丈夫です。文字数の制限はありませんので、書いてくださる方のご判断で結構です。

※注意：推薦者の署名（自筆）・押印（スタンプ印不可）が必要です。外国語の場合は、日本語訳も必要となります。

[2023年度実績]

出願期間：2023年10月4日（水）～25日（水）

受 給 者：依田 はるなさん（法学部 法学科1年）
計 画 名：「フィリピンの支援が必要な地域に住む方々の歯の健康を守るボランティア」
支 給 額：220,000円

受 給 者：塩澤 京佳さん（文学部 文学科 日本文学専修2年）、他26名
計 画 名：「[RSL-地域共生]『SOCIAL&PUBLIC』1・2期生による子ども食堂の開催～東京大学主催チャレンジオープンガバナンス2022総合賞受賞から実践へ。「DO YOUR BEST AND IT MUST BE FIRST CLASS」の精神を受け継ぐために～」
支 給 額：420,000円

受給者の声

応募を通して、活動の本質を見つめ直すことができた

私が「熊谷市内全小学校区での子ども食堂の開催」というプロジェクトに関わることになったのは、体験学習を重視する立教サービスラーニングセンターが開講している「RSL-ローカル（地域共生）」の受講がきっかけですが、いざ計画を立ててみると、学生が主体となって行うボランティア活動は現地へ行くまでの交通費や宿泊費の捻出といった経済的な課題があると気づきました。ポール・ラッシュ博士記念奨学金によってそれらのハードルをクリアすることができ、大変感謝しています。
また、活動計画書の作成や面接を通して、学生と子どもたちとのコミュニケーションを重視した場を目指すことがこの子ども食堂の意義だと再認識しました。どのようなレクリエーションがあれば、スムーズにコミュニケーションを取ることができるのか？という議論を何度も行い、議論によって生まれたアイディアには、どれも私たちの想いが込められたものとなりました。
このように応募のプロセスを通して、活動の本質を捉え直すことは、とても貴重な経験になったと思います。

文学部文学科
日本文学専修2年
塩澤 京佳さん

受給者の声

自分ができることには何があるのか

私は高校生の時から『ハローアルソン・フィリピン医療を支える会』で、貧困地域に住む人たちに歯の治療を行い、正しい歯の磨き方や現地での物資配布を行うボランティア活動に参加しています。この活動を始めた当初、日本では保育園児でも知っていることを、現地では、二十歳を超えた青年が知らないということを目の当たりにしました。自分の置かれた環境がどれだけ恵まれているのかを知り、常識だと思っていたものが崩れるほど驚いて、今後も継続してこの活動に参加しようと思いました。
現地では、主に自作の紙芝居を用いて歯の大切さを子どもたちに分かりやすく伝える活動行っていますが、同じ活動に参加している仲間やボランティアセンターの人たちにも相談し、この奨学金受給を機に、これまで行ってきた経験をもとに、今後も現地の人たちの力になれるような形で、自分なりに新たな活動を始めてみたいと考えています。
皆さんもボランティアに興味を持ったのなら、まずはボランティアに参加して、「自分ができること」を考えてみるのもいいと思います。私のこの活動が新たに活動を始めようとする方の少しでも助けになればうれしいです。

法学部
法学科1年
依田 はるなさん

ボランティアセンターとつながろう

「あなたの当たり前って本当ですか？」

全カリ立教サービスラーニング（RSL）科目を履修して、社会という「フィールド」に飛び出そう!!

キリスト教精神に基づく教育を展開する立教大学では、建学の精神のひとつとして、「共に生きる」という思想を大切にしています。人々に寄り添い、共に活動することを通して、本学の学生が様々な価値観や文化を知り、社会を担う一人の市民としての力を養ってもらいたいと考えています。このことを正課教育科目で学修できるのが立教サービスラーニング（RSL）です。

RSLでは、大学というキャンパスでの学びと社会とのつながりをRSLセンターが提供する「フィールド」を活用することで往還させながら、学生個人の学びをより深めてもらいたいと考えています。

また社会の現場で活動することは、学生個人のなかにある「当たり前」を問い直すことでもあります。社会のなかにある「多様性」を認識し、自分はこれから「どんな場所で」、「どのように生きていくのか」、「どんな現実があるのか」等を問うことは、あなたの将来のテーマをみつけるきっかけになるかもしれません。

立教大学ならではの特色ある科目にぜひ、チャレンジしてみてください！

詳細はガイドを見てね！

「立教サービスラーニング（RSL）センター」と「ボランティアセンター」は、池袋・新座両キャンパスで協力連携し、学生の学びをサポートしています!

2022年度「RSL-ローカル（南魚沼）」

［ 陸前高田グローバルキャンパス（サテライト） ］

本学は東日本大震災の復興支援活動に取り組んできました。 特に震災前から「林業体験」を通じて友好関係を深めていた岩手県陸前高田市を「重点支援地域」に指定し、同市をフィールドとした多様なプログラムを実施しています。2017年には岩手大学と協働で交流活動拠点「陸前高田グローバルキャンパス（サテライト）」を開設し、市民の皆さんはもちろん、学生や研究者といった大学関係者、企業や行政関係者など多くの人々が集う空間、そして相互の交流が生まれ、かつ深められる空間として活用されることを目ざしています。多くの学生が同市を訪れることができるよう、一定の条件を満たした場合に交通費・宿泊費の一部を援助する制度も用意しています。

頼れる情報源はコチラ

ボランティアセンター webサイト

http://s.rikkyo.ac.jp/volunteer

ボランティア団体の皆様・一般の方向けの情報を掲載しています。

在学生専用

SPIRITボランティアセンター webサイト

https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/

立教生のみアクセスできる情報を掲載しています。

Eメールでのお問い合わせ

volunteer@rikkyo.ac.jp

ボランティア活動に関すること、相談の予約等を受け付けています。

ボランティア情報ファイル

ボランティアセンターでは、団体情報、活動内容の資料を提供します。

メルマガ（月1回、月初に発行）

ボラセンからのお知らせやボランティア募集情報・イベント情報などを配信しています。

●メルマガ登録申し込みフォーム

https://forms.gle/FVFFB5wEH77y8qGs9

※立教Gmail（学生番号@rikkyo.ac.jp）にお送りします。
携帯電話、個人アドレスは登録できません。

ボランティアセンター掲示板

池袋キャンパスは5号館1階、新座キャンパスは7号館2階に常設掲示板があります。学内立て看板、学内掲示ポスター、立教時間などもご覧ください。

ボランティアナビ

ボランティア募集情報の閲覧サイト

センターに届くボランティア募集情報を、ネット上でも閲覧することができます。
V-Campus 利用者のみ閲覧可。ログインに V-Campus の ID とパスワードが必要です。

note

メールマガジンの配信、立教生のボランティア活動の「今」を知ることができる情報等を随時紹介しています。
ぜひご覧ください！
https://note.com/rikkyo_volunteer/

SNS 情報

X（旧Twitter）アカウント @rikkyo_volucen
Instagram アカウント rikkyo_vc

X（旧Twitter）

Twitter & Instagramもやってるよ！

Instagram

ボランティア保険について

ボランティア活動中に本人がケガをしたり、他人に損害を与えた場合に補償する保険です。近くの社会福祉協議会で加入できます（年間350円～、年度ごとに更新）。また国際ボランティアに参加する方は、長期・短期にかかわらず海外旅行保険に必ず加入しましょう。

立教大学 ボランティアセンター

ボランティア活動に関して何でも気軽に相談してください。
多数の情報はもちろん、ボランティアに関するパンフレット、
さらには交流の場に活用できるスペースも用意しています。

池袋キャンパス

〒171-8501 東京都豊島区西池袋３-34-1
TEL 03-3985-4651　FAX 03-3985-4657
開室時間　月～金 9:00 ～ 17:00
※開室時間は、池袋・新座両キャンパス共に変更になる場合があります。

池袋・新座共通メールアドレス　volunteer@rikkyo.ac.jp

新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
TEL 048-471-6682　FAX 048-471-7312
開室時間　月～金 9:00 ～ 17:00

立教大学ボランティアセンター 2024 年度 ボランティアガイド

発　行：2024 年４月
発行者：立教大学ボランティアセンター
池袋キャンパス
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
TEL. 03-3985-4651　FAX. 03-3985-4657
新座キャンパス
〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26
TEL. 048-471-6682　FAX. 048-471-7312
email：volunteer@rikkyo.ac.jp　web：https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/SitePages/index.aspx
印　刷：株式会社太平社